

令和2年度
「モラル・エッセイ」コンテスト受賞者一覧



福島県教育委員会

[審査結果]

この度は、「モラル・エッセイ」コンテストに多数の御応募をいただき、誠にありがとうございました。一次・二次審査を経て下記のように受賞者が決まりました。

9名の皆様、受賞おめでとうございます。

中学生の部 最優秀賞 1名

「何気ないけれど大切なこと」 会津若松市立第二中学校 1年 山本 実紀 さん

優秀賞 2名

「母の一言」 南会津町立南会津中学校 2年 芳賀愛梨花 さん

「親切の連鎖」 本宮市立本宮第一中学校 2年 鈴木花奈美 さん

高校生の部 最優秀賞 1名

「つなげる－会津坂下の早乙女踊り－」 会津農林高等学校 2年 山内 里紗 さん

優秀賞 2名

「当たり前だけど当たり前じゃない」 喜多方桐桜高等学校 3年 大塚 愛 さん

「気持ち」 四倉高等学校 2年 諸橋 琴音 さん

一般の部 最優秀賞 1名

「具材のない隠し味」 二本松市在住 鈴木 雅之 さん

優秀賞 2名

「私のこころの支え」 矢祭町在住 青砥 安彦 さん

「孤独の中で」 福島市在住 長野野々香 さん

[応募総数]

	中学校	高等学校	一般	計
応募総数	440	39	46	530

(審査委員)	一次審査	義務教育課指導主事 高校教育課指導主事	
	二次審査	日本大学工学部 准教授 福島県教育庁教育総務課長 福島県教育庁高校教育課長 福島県教育庁義務教育課長	渡邊 真魚 氏 高瀬 智美 丹野 純一 福地 裕之

[講 評]

- 新型コロナウイルス感染症の影響で普段通りの生活ができない状況だからこそ感じた家族や友だちの温かさ。思うようにいかない状況の中で見えてきた人と人との関わりや、差別、偏見について真剣に向き合い、考える作品が数多くあった。
- 自らが体験したこと、経験したことについて、友だちや家族のちょっとした一言をきっかけに立ち止まって考えることで、思いやりや感謝等について自分の価値観を見つめ直す作品が多く見られた。